



中村俊定文庫  
文庫 18  
129



うねのわ  
下



浮世の北下巻

七五

支考

山のまくり 卯とままりり ちちらら  
 吾る居す 見れ 喜む 時し ね  
 かけりまり備れのりり 押を ちち  
 かほりる ちち 備へ ちち 居る 足  
 有り ちち 備へ ちち 居る ちち 居る ちち  
 有り ちち 備へ ちち 居る ちち 居る ちち

黙不

吏明

黒太

碧川

可吟



自

万常々きき流し 柳の辰傍 指筆  
 日初ありり 門こり 又くお 考  
 錦なり 可流し 碓氷馬乃強 吟  
 一巻く 立居乃 不可心さよ 川  
 きり入 居ま 持たれ下 乃茶 太  
 むきこ 此 必 以 人 衆 養 ち け 明  
 ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ 不  
 地 一 あり あり あり あり あり あり 等

いあり あり あり あり あり あり 考  
 津嶋 あり あり あり あり あり 吟  
 戸鴨の まら あり あり あり あり 川  
 ちの の ま あり あり あり あり 太  
 二 ね あり あり あり あり あり 明  
 全 あり あり あり あり あり 不  
 あり あり あり あり あり あり 筆  
 上 あり あり あり あり あり 考



歌仙半

先人  
命清

いほむしうらけぬし思ふ草の思

穂よのけを 田のけりし

信ふれまむのけはまきほし

茶のさししやまてあうり

あうまれおらんかきんほのみ

いふまはしうらけぬ

可吟

雪芝

吏明

支那

土芳



奇儂

去来

新 ニ 夕 ノ 野 ノ 暮 ノ 郭 ノ

こ ノ 空 ノ 窓 ノ 棧 ノ 風 ノ 夜 ノ 林 ノ 可 ノ 吟

風 ノ 燈 ノ 籠 ノ ち ノ ま ノ じ ノ 風 ノ 燈 ノ 籠 ノ ち ノ ま ノ じ

夕 ノ 野 ノ 暮 ノ 郭 ノ 夕 ノ 野 ノ 暮 ノ 郭 ノ

夕 ノ 野 ノ 暮 ノ 郭 ノ 夕 ノ 野 ノ 暮 ノ 郭 ノ

夕 ノ 野 ノ 暮 ノ 郭 ノ 夕 ノ 野 ノ 暮 ノ 郭 ノ

夕野暮郭

吏明 可吟 支考 大妙 惟然



芳苗のふゆ 道うくんひき  
大工を海ハぬ こを辰也引  
石籠の辰のきく 函の衣はく  
とれふり牛れふり車やれ  
戸障子と志知くぬ 深き堀を  
つらぬうりかきけ 櫓  
うあの日あやうき いろくま  
兒の心持をまふりく  
考 州 然 来 州 吟 明 考

いふとのこまぬぬれ 煮て  
はらきははらる 西偏衣 桶  
積々まやき 梅ふぶ 湯鉄 辰 杯  
三日中 ぬり 京 塔 一 庭 庭  
花 咲き ぬれ あり 見え あり  
二重乃のこぢれ ぬ おほろや  
考 州 然 来 考 吟 明 考

奇仙

曲

一了んそく子孫とてまはふ門巻の  
 ういふことあるまはるる行  
 雪月花影み川越は<sup>つ</sup>もりして  
 秋のよきよきあそびは心く  
 ぬれりけり何うとてなすそ  
 ち片あつて小窓四五十  
 天明 遊刀 懐 臥高 可吟

志のうらみは病に内なるもたふとあり  
 娘の病は日たふ他人ちり  
 襟袂し去年春衣をさめて  
 さいまゝまゐりし赤き海こそ  
 あらひるのふとれんまゝをさたり  
 ちり書や通れ横景桃灯  
 けう水のこゆる菖菘 巾  
 牛のあゝまゝしゝありたれ蝶

九  
 奔 支考 吟 翠 高 朋 刀

こよみをこれ馳走の歌 ころり  
 身をわたりまきこある日し歌  
 かく町めあはれうらむ肥人ちり後  
 うらみうらみまき 春衣海より  
 二  
 いかきあふりるまゝはいつも風あつて  
 一日くちやぬ 江戸中巻 鏡  
 小世帯と持ちあふれし妻所  
 ちりりの伯母とくちりるよゝめ

考 言 朋 翠 吟 然 44 考

降きそちちんれに  
 海く指むくとも  
 故屋はは舞子あ  
 月もま月とそれ  
 野くさくおはさ  
 入かふらといと  
 勤子苦みすれ精進

刀 明 高 吟 子 抄 出 刀

ウ

後う休書月  
 北の産は  
 半と  
 乃ら此  
 散  
 茶摘乃

考 抄 然 吟 刀 明

信長

旅り

許六

大木深なる池に石を束下涼し

おはす干れ 曝 白奴 可吟

一日荒塵を馬屋<sup>屋</sup>り 掃 己 李由

ぬれぬ背に 一 草 刈 友秀

檀<sup>檀</sup>持もわがきゆられぬ 女 若 本海

濱の 静 若 女 若 留 一 啼 吏明

字世山下



おのやれぬ房えうあるりきさ  
 お<sup>赤</sup>舞<sup>赤</sup>一<sup>赤</sup>たるるるれ<sup>赤</sup>模<sup>赤</sup>りたる  
 たるはるよ日おあるる<sup>赤</sup>大<sup>赤</sup>ゆお  
 たるるる<sup>赤</sup>あ<sup>赤</sup>き<sup>赤</sup>四<sup>赤</sup>谷<sup>赤</sup>一<sup>赤</sup>谷<sup>赤</sup>  
 へあ<sup>赤</sup>の<sup>赤</sup>白<sup>赤</sup>さ<sup>赤</sup>て<sup>赤</sup>き<sup>赤</sup>あ<sup>赤</sup>る<sup>赤</sup>る<sup>赤</sup>  
 するぬま<sup>赤</sup>く<sup>赤</sup>る<sup>赤</sup>ゆ<sup>赤</sup>あ<sup>赤</sup>れ<sup>赤</sup>あ<sup>赤</sup>り<sup>赤</sup>  
 たるの<sup>赤</sup>あ<sup>赤</sup>ら<sup>赤</sup>ち<sup>赤</sup>あ<sup>赤</sup>の<sup>赤</sup>下<sup>赤</sup>れ<sup>赤</sup>き<sup>赤</sup>あ<sup>赤</sup>る<sup>赤</sup>  
 たる<sup>赤</sup>の<sup>赤</sup>あ<sup>赤</sup>ら<sup>赤</sup>ち<sup>赤</sup>あ<sup>赤</sup>の<sup>赤</sup>下<sup>赤</sup>れ<sup>赤</sup>き<sup>赤</sup>あ<sup>赤</sup>る<sup>赤</sup>

村 寅 吟 導 考 六 明 由

知<sup>ウ</sup>流<sup>ウ</sup>二<sup>ウ</sup>は<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>  
 たるの<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ち<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>下<sup>ウ</sup>れ<sup>ウ</sup>き<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>  
 何<sup>ウ</sup>凡<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ち<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>下<sup>ウ</sup>れ<sup>ウ</sup>き<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>  
 お<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ち<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>下<sup>ウ</sup>れ<sup>ウ</sup>き<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>  
 世<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ち<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>下<sup>ウ</sup>れ<sup>ウ</sup>き<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>  
 たる<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ち<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>下<sup>ウ</sup>れ<sup>ウ</sup>き<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

村 寅 吟 導 考 六 明 由

二五十四





下 列 母 達 忠 一 方 少 々 老 々 目 子  
 和 妙 ち ち ち ぬ 日 此 降 ち ち  
 本 櫛 小 小 多 此 ち ち ち ち ち ち  
 辰 所 の 辰 柳 此 ち ち ち ち 日  
 振 舞 を せ ち ち ち ち ち ち ち ち  
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 次 明 川 吹 明 推 吟 院

少 在 交 ち 上 戸 ち ち 下 辰 辰 音  
 四 っ の ち ち ち ち 辰 辰 辰 辰 辰  
 何 と ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 白 晃 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 二 月 此 日 辰 辰 ち ち ち ち 辰

川 推 院 推 吟 推 院 推 吟 推 院

少 上 戸

辰

又子顔

可吟

維子時や音音明石岩岩間

米附るれはくされれ日

我里の芋極くはくされれ日

くされれはくされれ日

風あふるを産るるるるるるる

又されれはくされれ日

吏明

支考

楡栢

山嵐夕

圓碎



丁多此世の傍うらく砂乃上  
 けりれくくくくくく風名<sup>（表）</sup>  
 高の初いと款名をくくく  
 扇きもくくくくくく  
 十のくくくくくくくくく  
 後くくくくくくくく  
 百ふくくくくくくくく  
 小くくくくくくくく

梅方 指糸 白巾 陳忌 田解 可吟 妻明 墨々

<sup>かへり</sup>くくくくくくくく  
 くれぬ長 毒はほくく  
 武士<sup>士</sup>くくくくくくく  
 号階れくくく ぬれ速 心  
 旅立ん言れ日お甲口本一  
 長官はくくく 孫乃 如 能  
 向れるくくくくくくく  
 ぬり不後よりくくくく

昨飛 嵐夕 路幸 碧川 唾凡 豎不 指糸 歌幸

武士



指筭 三白  
點不 二白  
詠平 三白  
陳思 二白  
去留 二白

一毛 一白  
執筆 一白

京寺町二条上町  
井筒屋三三出板

可吟 三白  
吏明 三白  
多考 一白  
桐方 三白  
嵐夕 二白  
田解 三白  
里冬 三白  
昨也 二白

草舟 二白  
味凡 三白  
角巾 二白  
如殿 二白  
好水 二白  
碧川 三白  
長平 一白  
長次 一白

昭和十二年五月九日 校令  
主令便圖書館存正此校令

昭和十二年

五月九日

